

## 会 議 録

会 議 名	令和 3 年度 川西市社会教育委員の会(レフネック部会)臨時会		
事務局	教育推進部 社会教育課 (内線 3424)		
開催日時	令和 4 年 1 月 28 日(金)10 時~11 時 07 分		
開催場所	川西市役所 4 階 庁議室(Zoom による web 会議)		
出席者	委 員	常行副議長、倉橋委員、樋口委員、上田委員	
	そ の 他		
	事 務 局	藪内教育推進部副部長(社会教育・図書館・公民館担当)、村山社会教育課長、木田副主幹、網永事務員、海野	
傍聴の可否	可	傍聴者数	4名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	別紙のとおり		
会議結果	別紙のとおり		

# 審議経過

## 1. 開会

## 2. 報告事項

### (1) 事業再検証のパブリックコメントについて 資料1

事務局より、報告がなされた。

令和3年10月18日から11月17日までをパブリックコメント受付期間として市民からの意見を受け付けた。パブリックコメントでは市の全事業に対して、132名から194件の意見が寄せられた。その内レフネック、りんどう学園の見直しに係る部分を抽出して資料1とした。内容としては、これまでレフネック部会で協議してきたものと重なりが多く見られる。

- 受講生に現役世代が少ない理由、高齢者が多く占めてくるのは、全人口の割合から言って当たり前なことだ。
- 現役世代をターゲットとしていくのであれば、その理由を明確にしないと今後同じことを繰り返すのではないか。
- レフネック廃止に反対だ、継続してほしい。
- 講座のオンライン配信、アーカイブ配信を望む。
- 受講生として現役世代を望むなら開催曜日や時間、受講期間を検討すべきだ。
- レフネックとりんどう学園、2事業の整理統合も考えられる。
- その他、事業の運営管理以外として、現在行っているグループ活動への支援の要望があった。

これらの説明について、委員から種々意見が述べられた。

- 《生涯学習短期大学は廃止・休止》という表現がパブリックコメントに出てくるが、レフネック部会では「見直して再構築する」と考えている。我々委員の今までとは形を変えてリニューアル、もう一度新装開店する意図が伝わっていないと思う。
- コメントをした方は生涯学習を「一般教養」と受け止めているようだ。生涯学習は一般教養である必要はない、もっと広く捉えてもよい。
- 社会教育の仕組みとして、パソコン関連のグループからのコメントにもあったが「教え合う、学び合う」形が必要と思う。今後考えていきたいのは「学び合う」ことだ。
- 「教えられる」ことに固定観念が強すぎる。
- レフネックの歴史と継続してきた意義を考えた上で、高齢者や現役に縛られずさらに幅広い世代のための機会はどうすれば提供できるのか再構築が必要だと思ってこれまでの会議に参加してきた。パブリックコメントに寄せられた意見を取り入れながら、もう一度レフネックのあり方について根本の部分を掘り下げて、令和5年度から新たな生涯学習の仕組みを進めて行ければと思う。
- レフネックの体制のこと、これまでにあった同好会に対するパソコン関係の支援をどのように考えていくのかは課題ではあると思うが、それを含めての再構築である、方向性を理解していただきたい。
- 「市の検討結果」は非常にあっさりしている。これまで続けてきた高齢者層への教育サービスが完全になくなってしまうという懸念を非常に強く感じた。限られたスペースでの

回答は難しいと思うが、この回答ではパブリックコメントとして提出された意見に対して、伝わらないと思う。

- これから議論する提言書では「潰すのではなく再構築だ」「高齢者の為にも行政はちゃんと考えている」と伝えることが必要だ。
- 事業再検証の結果について活字にすると《生涯学習短期大学は廃止・休止》となっているが、これは、表現上のことだ。レフネックとりんどう学園について、一部委員から「重複している」という意見が出た結果が《生涯学習短期大学は廃止・休止》として表れていると思う。
- 社会教育委員の会（レフネック部会）では、これまで運営してきたレフネックとりんどう学園を「ゼロベースから再構築する」ということで、協議している。
- 生涯学習の再構築のなかで高齢者を切り捨てるのは、いかがなものかと思う。
- 幅広い学習を、学校教育で一方向的に教えるのではなく、学びあうことを社会教育委員の会（レフネック部会）の提言として考えたい。
- パブリックコメントの意見をふまえながら、公民館での活動を汲みながら現状に合ったものの中で最上のものを作り上げられるように新たな生涯学習の仕組みを考えるのが次の課題と思う。

委員からの意見に対して、事務局からコメントが述べられた。

- 検証結果として出している市の意見は、包括的に非常に短い文章で書かれている。
- 《生涯学習短期大学は廃止・休止》について、「完全になくす・廃止してしまう」のではなく、見直すべきところがあるので、モデルチェンジとして、全体見直しとして取り組んで行きたい。

### 3. 議題

#### (1) 提言書（案）について 資料2

事務局より、資料2に基づき説明がなされた。

令和4年2月9日（水）社会教育委員の会全体会では、地域学校協働本部部会およびレフネック部会の提言（案）を披露する予定だ。資料2は、レフネック部会の部分のみを提示したものだ。地域学校協働本部部会（案）と同じスタイルで構成している。

「川西市社会教育の方向性 ～つながり学びあうこと～」という共通テーマで各部会の提言を一つにまとめるか、別にするかは今後検討するとして、資料2についてご意見を頂戴したい。

#### 【構成】

1. レフネックとは
2. レフネックの現状について
3. 現状から見えてくること ―レフネックの評価できる点と問題点―
4. 令和3年度事業再検証および市の事業の見直し（事業再検証）（案）について
5. レフネック部会での討議について
6. 今後のレフネックのあり方についての提言

- (1) 児童・生徒が参加できる講座の実施を検討する。

- (2) 学校をサポートする市民人材を育成する。
- (3) 地域で活動する市民人材を育成する。
- (4) 平成29年度社会教育委員の会の提言を更に推進していく。

これらの説明について、委員から種々意見が述べられた。

- 先日、三田市の会議に出席して感じたことが「人材の発掘」だ。三田市「こうみんプログラム」を見る限りだが、育成しなくてもすでに人材はある。
- 時代が求める生活に必要なテーマとしては「スマートフォン」がある。例えば、昭和50年代の公民館では洋裁関係の講座を開催してきたが、現在は全く出番がない。行政が市民に習得してもらいたい技術、生活の為の技術は時々で変わっていく。生活の為に必要なテーマは講座として供給すべきだ。
- オンライン講座は、現在仕方なしに開催している部分もあるが、コロナ禍が終わった後はどうなるのか。参加者の感想の中には「オンラインだから受講できる」という肯定的な意見もある。使い手と使い道、使う人の意識も時々で変わってくる。提言書では、時代の変化に合わせて市民にメニューを提供することは、生涯学習の意義でもあり目的でもあると考える。
- 提言書（案）の大筋はこの方向かと思う。細くなるが、人材の育成、発掘、養成、色々な言葉の使い分けが必要だ。育成は「〇〇をしてくれる人を育てる」、養成は「広く人を育てる」等、よく考えて使っていると思う。今後は、「〇〇をしている学校現場で必要としている人材は〇〇だ」等、事例をはっきりと示して、言葉の裏にある意図をわかりやすくすることだ。その他、文章的な表現の整理が必要な箇所がある。
- 提言書（案）を読んでいると「市民人材」「地域人材」にはあまり定義がないように思う。今後1年間かけて中身を具体的に整えていくことだ。
- 社会教育の学習の場では、専門的な部分を深めていって広げていく。実践的、実用的なものに対して、主体的に学びを求めて行く場だ。今回の提言書には、人材が活動できる場、地域のニーズに市民の力を借りて社会をもう少し活性化というイメージがある。
- レフネックの専門的な分野を深く掘り下げる学習に対して、沢山の方が受講料を負担して主体的に学びを求めて来た経緯がある。
- レフネックの専門的な分野を公民館講座に移管していくというが、どの程度になるかがわかりにくく難しい。
- 大学等も公開講座をいろいろな形で開講している。市役所でも各部局が様々な講座なり研修をしている。それらを上手く一括したデータベースがあると、学びたい人が学びの場につながる仕組み等が可能になる。社会教育の部分と時代のニーズ、各部局、大学との連携を進めていく仕組みが出来ると良い。
- レフネックの問題点として「受講する学生について、新規の学生を取り込めていない傾向がある」とあるが、どういう数値に基づいているのか気になっている。これまでの毎年の新規参加率の平均数値を入れる等、具体的な数値に基づいた記述にすると良い。
- 地域貢献について「レフネックでの学びが自己の学びに留まっており地域社会の貢献に役立っていると言えない」について、この文章で言いたいことは、次の文章「今までに実施してきた講座の内容は実生活につながりにくい」が兼ねていると思うので、「レフネッ

クの学びが地域活性化に役立っていると言い難い」は削除したほうが良い。

- 「今後のレフネックのあり方」(1)(2)(3)についてはこの委員会で議論してきた通りだが、これまでにレフネックに参加してきた「レフネックを残してほしい」人が読むとどのような印象を持つかと考えてみた。高齢者が沢山受講してきたレフネック、高齢者大学りんどう学園がなくなって、児童・生徒に特化した講座が新しく追加された。そして新しく学校現場をサポートとか地域で活躍する市民人材とかいう話が出て来ている。これまで高齢者が受けてきている講座は「公民館に丸投げですか」と言う印象を持つと思った。今回「児童生徒に特化した講座」をなぜ考えたのかを文章で表した方がよい。「学校をサポートする人材」「地域で活躍する人材」がなぜ必要なのか、なぜ取り組んでいくのかをもう少し文章で説明を加えたほうが良い。
- 公民館でレフネックやりんどう学園の事業を実施することについて社会教育委員の会（レフネック部会）ではほとんど議論していない。我々委員が公民館の活動をこれからどうしていくのか、そこに我々がどれほどコメントできるのかが分からない。資料2では、提言書を読む人が「公民館に丸投げじゃないか」という印象を持つ懸念がある。平成29年度提言書の記述として、「公民館が高齢者の生きがいにづくりに取り組む必要がある」とあるそうだが、なぜ公民館が高齢者の生きがいにづくりに取り組む必要があるかを今回の提言のなかで説明した方が良い。平成29年度の提言書を別途取り寄せて読めばわかるのかもしれないが、わざわざ別途取り寄せて読む人はいないと思う。具体的に公民館がこれまでレフネックで高齢者が受けているサービスをどの程度継承できるのかが資料2からは読み取れない。これまでレフネックで受講していたアカデミックな講座をどの程度受けられるのか、これまでにあったパソコン講座関係の充実したサポート支援があるのか、令和5年度からの新しい社会教育の仕組みに対して、これまでの受講生が持つであろう不安をある程度解消できるように提言書は書かないといけない。
- これまでの教育サービスをその通り継続することは難しいと思うが、公民館でどの程度継続出来るかをある程度書くと良い。
- 市内に複数ある公民館が連携して講座を検討することは可能か。
- 情報の伝達として、
  - ① 今期の委員は2年間の任期がコロナの関係で実質1年間の期間で提言書をまとめることは認めるとしても、それよりも前に過去に川西市社会教育委員の会として提言してきたことを今すぐ理解してくださいと言われても理解できない。
  - ② 公民館講座は今後誰が企画するのかをこれまで議論してこなかった。レフネックに関して言えば令和4年度でもって終了するが、公民館に関しては、これまで議論してこなかった表現が提言書（案）に含まれていて理解しがたく感じる。
  - ③ 提言(1)(2)(3)(4)の各項目に補足を書き込むと良い。例えばだが、「レフネックでこれまで学んできた人は置き去りですか」という懸念を我々委員も持っている。また、少し元に戻すとしたら、パブリックコメント、その他で出てきた《生涯学習短期大学は廃止・休止》という文言への誤解が懸念される。それらを多少なりと薄められるように、提言の補足部分で理解を深められればと思う。
- 広報誌から情報を取るの難しい、市のホームページから市民が自ら情報を取って出かけられるような仕組みができればと思う。

- 生涯学習事業のコーディネーターは、どこがするのか。生涯学習の事業計画も含めて実際現場で事業を誰が割り振ってどう分配してどのように動く姿を目指すのか。初めは困難かと思うが、市民のための学習事業は全体としてどこが割り振るのかは基本的な考え方だ。地域毎の課題は個別にあるが、川西がレフネックという大きな看板を外すのであれば次の看板は良いものをつくらないといけない。
- 大学の先生と講座を計画するのは大変だ。令和4年度は、従来のレフネックと令和5年度からの新しい計画をすることになる。実際の講座をはじめより早い段階からは基盤的な部分を検討することだ。
- 公民館との今後のあり方は重要な部分だ。引き続き検討してほしい。

委員からの意見を受けて事務局からコメントが述べられた。

#### 【公民館講座に関して】

- 公民館講座は現状では市内10館が各々で事業を計画している。
- 公民館の核になっているのが川西公民館だ。今後、公民館で講座を企画していく際は、月に1回開催している館長会で調整が考えられる。館長会には毎回、副部長が出席している。
- 公民館講座としてレフネックや高齢者大学の部分を移管していくとしているが、具体的な計画についてはこれから調整協議する。
- レフネック・りんどうで実施してきた部分を少しでも充実した形で公民館に移行できればと思う。令和4年度から具体的に取り組む。

#### 【提言書（案）について】

- 提言書の最終イメージがまだ書ききれていない。
- 本件は事務局で引き続き内容を精査していくこととする。

#### 4. その他

##### (1) 次回の社会教育委員の会の開催について

事務局から、次回の社会教育委員の会（全体会）は令和4年2月9日（水）10時から11時半の予定で開催する。開催案内は、すでに委員各位に通知済みだ。出席をお願いしたい。

#### 5. 閉会